

## 再評価結果（平成16年度事業継続箇所）

担当課：国道・防災課  
担当課長名：中島 威夫

<b>事業名</b> 一般国道1号 <small>にっさか</small> 日坂バイパス	<b>事業区分</b> 一般国道	<b>事業主体</b> 国土交通省 中部地方整備局
<b>起終点</b> 自：静岡県掛川市佐夜鹿 至：静岡県掛川市八坂	<b>延長</b> 4.3 km	
<b>事業概要</b> 日坂バイパスは、現国道1号の掛川市佐夜鹿～八坂間で多発する事故（急勾配、急カーブ区間が連続することに起因）及び災害危険箇所を回避し、主要幹線道路としての安全性・信頼性の向上を図る延長4.3kmの4車線道路である。		
S62年度事業化	S62年度都市計画決定 (H年度変更)	H元年度用地着手
<b>全体事業費</b> 330億円		<b>事業進捗率</b> 68%
<b>計画交通量</b> 39,200台/日		<b>供用済延長</b> 3.0km
<b>費用対効果分析結果</b>	<b>B/C</b> (事業全体) 2.8  (残事業) 6.1	<b>総費用</b> (残事業)/(事業全体) 83 / 179 億円 (事業費：69 / 165億円) (維持管理費：14 / 14億円)
<b>総便益</b> (残事業)/(事業全体) 508 / 508 億円 (走行時間短縮便益：499 / 499億円) (走行費用減少便益：3 / 3億円) (交通事故減少便益：6 / 6億円)		<b>基準年</b> 平成15年
<b>事業の効果等</b> ・災害への備え（防災点検箇所の回避ができる） ・災害への備え（緊急輸送道路としての位置づけがある）		
		他2項目に該当
<b>関係する地方公共団体等の意見</b> 国道1号日坂バイパスは、交通難所である現道の対策として、主要幹線道路としての安全性・信頼性を確保することが期待されており、掛川市をはじめとする関係3市2町の首長で構成される島田・磐田間バイパス建設促進同盟会より早期整備の要望（平成15年8月21日）を受けている。		
<b>事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等</b> 平成11年3月に2工区の開通により、現道部の渋滞解消及び交通事故の減少が図られた、しかし、残りの1工区は依然として現道部の事故が多発している。		
<b>事業の進捗状況、残事業の内容等</b> 現在までに2工区の日坂インターから八坂インター間が平成11年3月に部分供用している。		
<b>事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等</b> 1工区の全線にわたり工事を進めており、平成15年度に暫定2車線供用予定である。平成16年度以降については、日坂ICの東京側ランプ及び現道対策（歩道整備等）を実施の予定である。		
<b>施設の構造や工法の変更等</b> 他事業との事業調整により残土を盛土に有効活用を図った。		
<b>対応方針</b> 事業継続		
<b>対応方針決定の理由</b> 以上の状況を勘案すれば、当初からの事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる。		
<b>事業概要図</b>		

※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したものの。  
 ※ 事業全体の費用便益は、既供用区間を除く区間を対象とした費用便益分析を行っている。